

第2回 大門まちづくり共創会議 議事録

日 時：令和7年5月18日 18時00分～20時30分

場 所：塩尻インキュベーションプラザ 産学連携研修室

参加者：別紙一覧表のとおり

次 第：①開会

②あいさつ（大門三番町区長 備前隆さん）

③共創会議の役割について（㈱しおじり街元気カンパニー）

④全員で自己紹介

⑤グループディスカッション

（1）グループで意見交換 （2）グループの意見を発表

⑥アンケート記入、閉会

——以下、各グループのディスカッション内容の発表内容——

テーマ：共創会議への参加理由、街への想い、やりたいこと

■1班

- ・いきなり土日平日ずっと賑わうという高いハードルではなく、まずは土日だけ賑わいをつくるなど低いハードルから活性化をはじめ。例えばマルシェなど。土日に集客できる何かをやって、人出を増やしていく。
- ・学校の先生もこの会議に参加しているので、高校生たちが生き生きとボランティアとかをできるようにしたい。
- ・高校生がたくさん歩いている街になれば、若い人が活性化してくれる。高校生に元気に歩いてもらえるように、高校生が運営できるカフェなど体制をとっていく。
- ・街には人が歩いていないと言われるけれど、それぞれのお店には意外と人はいるので、それをつなぐ。富士見町では、手作りのマップがどの店にも置いてあって、それを見て他の店に行ってみようと思った。普通の食堂でもおいしそうに思わせる力がある。とても良いと思ったので、塩尻でも地図などを作りたい。普通の店がキラキラした店に見える。
- ・小さなところ、今あるところ（店舗、バシヨ）から活用していく。

■2班

- ・桑の湯でお風呂に入った後、五千石茶屋に行くなど、お店単体で終わるのではなく歩く流れを作る。その前の道路でお酒を飲めたらさらにいい。ウォークブ

ルの拠点になる。

- ・ウォーカブルでいう「歩きやすい」というのは、歩道を広げるだけではない。街の中に小さな目的地、居場所がたくさんある状態ができ、そこを点々と回るようになれば、歩いていて楽しい街になるのではないか。
- ・目的地、居場所はいろんなケースがあってよい。使う人が一緒に作る段階から加わる家づくりをする場所、小商いをする場所、ラジコン好きが集まる場所、スケボやっている高校生が集まる場所など。
- ・連山の前の木の下で高校生がデートしていたのに、今は木が切られてその場所がなくなってしまった。デートできる場所がない。高校生を使ってまちづくりではなくて、高校生にとって今ある環境を大人が奪ってしまっている。
- ・小さな目的地がつながって歩いていて楽しい街になったらいい。

■3班

- ・塩尻で何が行われていて、だれがどんな思いでやっているのかを知りたい。
- ・今後大門商店街がどうなっていくのか、その変化に率先して関わりたい。
- ・人のいる場所をつくっていききたい。
- ・何ができるかではなく、何をしようかという意識。
- ・大門商店街を使った塩尻独自のキッザニアを企画していききたい。
- ・漆器とワインをつなぐツアーを企画したい。
- ・塩尻音頭を踊るために何ができるか。
- ・行政とうまく付き合っていくために何ができるか。
- ・楽しむことを作っていく。ゴーストタウンにはしていきたくないという思いが強いグループだった。

■4班

- ・知り合いが増えたらうれしい。知り合いが多ければ大門が楽しい街になる。
- ・今この街にはどんな人がいるのか知りたい。どうすれば人がいたい街になるのか。
- ・これから先商店街を、子どもからお年寄りまで集う街にしたい。今は中間層に目を向けていることが多い。高齢、障害のある人が生きやすい街にするにはどうしたらいいか。
- ・駄菓子&カフェをやっている、「うどんを出してほしい」と言われた。うどんを出してくれたら高齢者が来る。お茶飲み仲間が集える場所があることもいいのではないか。
- ・演劇の関係の仕事をやっている。小劇場を作って演劇の発表をするなどをした。イベントと演劇を合体させるイベントがあってもいい。

- ・高校生の力を借りて、高校生がお店をできる、参加をしてくれる大門商店街になっていくことも大事。
- ・今は情報が混乱している。市民タイムス、市の広報、SNS など、どこを見ればいいのかわからない。この会議もギリギリまで知らなかった。先週の歩行者天国も開催を知らなかった。後になって気づいた方もいる。知っていたら行ったのに、と思う。自分たちがどうやって情報を整理して発信していくのか。混乱している中どうやって情報を受け取ることができるのかも課題なのでは。

■5班

- ・参加することは決めていなかったが、たまたま見たホームページで、議事録を見た。胸が“きゅん”とした。地域の人ではない外から来た人がこんなに一生懸命商店街のことを考えている。それなのに地域の人が絡まないのはよくないと感じた。
- ・第1回の議事録の中で境遇に近い人がいた。昔は今のえんぱーくのある場所で親が店をやっており、生活拠点があった。だから大門への思い入れが強い。親世代もそうで、この町で育ってきたという自負がある。
- ・大門地区の状況を知りたい。抱えている問題を知りたいという興味。
- ・地域との交流を深めて信頼関係を深め地域のキーパーソンになる人になってほしいという思い。
- ・企業人として地域にどんな貢献ができるか考えてみたい。郵便局という基盤を利用してほしい。もし郵便局に相談があれば何でものりたい。
- ・“あの頃”の賑わいを取り戻したい。
- ・昔の賑わいを知っているから、同じように賑わってほしいと思う反面、あの頃とは違う暖かさの賑わいもありなのではと思う。
- ・人口を増やして人の流れを作って、店舗の流動化を図りたい。大門商店街が日々寂しい現状を何とかしたい。街全体で集客作戦。商店街に行けば一日楽しめる場になったらよい。
- ・子どもたちが商店街で何かをして思い出を作ってほしい。通り道ではなく居場所になってくれれば。
- ・人が少なくなっていくのはどうしようもないが、その流れに流されるのではなく何かしたい。
- ・高校生がウィングロード（core 塩尻）で活動をしている。それが街に出てくるようになったらよい。

■6班

- ・地域のお店が古くなったポスターを貼っていて景観が良くない。

- ・街の外の人から魅力は何かを聞かれても答えられない。ずっと地元で生活していた人でも「地元の魅力って何があったかな」となる。それが知りたくて参加した。
- ・高齢者と子どものつながりを作りたい。地域のイベントは子ども世代に向けたもの、高齢の人に向けたイベントと年代で区切られている。ミックスされたような何かがあったらいいのでは。高齢の人は地域の子どもの顔を知らない。
- ・いろんな世代の人をつなぎたい。
- ・中高生がレザンホールの窓ガラスでダンスの練習をしている。彼らの活動の場所を作ってあげたり、中学生が高校の体育館を利用したりしてつながりを作ったりできないか。駅の下の通路のところで高校生の活動の発表ができるのでは。
- ・歩行者の歩くルート（街の歩き方）を作ってみたらどうか。
- ・今店をやっている人たち、その味を消滅させたくない。つないでいきたいとなったときに、外から来た人にそのお店をやってもらうというケースがあるのではないか。今お店をやっている人たちが、その味やお店を次の世代につなげていくために一緒に何かできれば。

総括

■高野ゼネラルマネージャー（全国市街地再開発協会）

- ・全国のまちづくりに関わってきたが、これだけの人が熱意を持っている地域は珍しい。これだけの熱意があって、逆に何に困っているのか、何が課題になって現状があるのだろうか。これから自分も考えていきたいところ。
- ・街をよくする取り組みはすべてが是である。違うことをやっているのだとしても、決して相手の取組を否定することなく、リスペクトし合いつつ建設的な話し合いにしていけたら。それぞれの取り組みを通じて、同じベクトルに向かっていることを常に意識して。
- ・今はまだロマンの段階。ロマンから企画へ、企画を実践へ、実践から儲かる段階へと、次の段階にもっていくのにそれぞれハードルがある。まだ今は第一段階。
- ・みんなのそれぞれが持っている「よくしたい」という思いが共有されていたらいい。
- ・すべてが実践できるかはわからないけれど、必ず次の世代や取り組みにつながる。高い打点で挑戦を続ける。
- ・今回のグループはランダムに分けた。やりたいことや属性がバラバラで、いろんな話が出てきてカオスになっていたと思う。今日それぞれが語った話を、カテゴリー別に整理出来たら、そこから組織分けして活動をしていくことにな

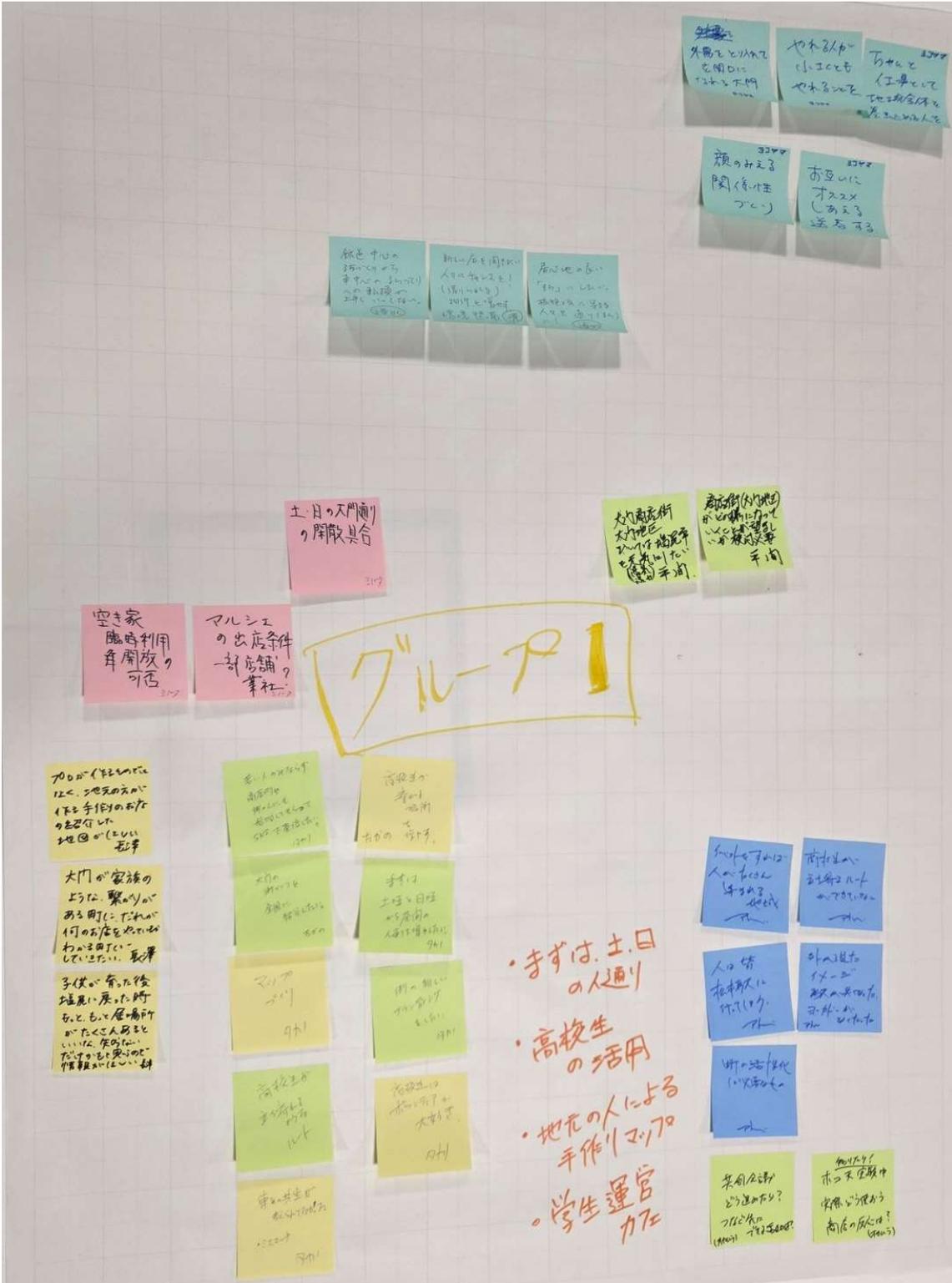
る。その組織は絶対的なものではなく、途中からやりたいことが変わったら、違うグループに入っても大丈夫。

- ・まちづくりの活動に大きいも小さいもない。団体や行政の取組はともすれば何か大きなものに見えてしまうけれど、一人の取組みと団体、行政の取組みは、まちづくりの価値においては同格。一方の努力も、一人であっても続けてほしい。それぞれの活動を共有する場としてこの共創会議を、年に2、3回設けることができれば、うまくいくのではないか。

1班 議事録

ファシリテーター：(公社)全国市街地再開発協会

■ 模造紙



■付箋内容

(参加者 A)

- ・プロが作るものではなく、地元の方が作る手作りのお店を紹介した地図が欲しい
- ・大門が家族のような繋がりがある町に。誰が何のお店をやっているかわかる町にしていきたい
- ・子どもが育った後塩尻に戻った時、もっともっと居場所がたくさんあるといいな。知らないだけかと思うので情報が欲しい

(参加者 B)

- ・土日の大門の閑散具合
- ・空き家臨時利用の開放可否
- ・マルシェの出店条件 一部店舗 業者？

(参加者 C)

- ・鉄道中心のまちづくりから車中心のまちづくりへの転換がうまくいっていない
- ・新しい店を開きたい人々にチャンス！（借りられる物件を増やす）環境整備
- ・居心地の良い「まち」にしたい。核施設に集まる人々の通り（まち）に！

(参加者 D)

- ・外需を取り入れて玄関口になれる大門
- ・やれる人が小さくともやれることを
- ・ちゃんと仕事として地域全体を巻き込める人を
- ・顔の見える関係性づくり
- ・お互いにおススメしあえる。送客する

(参加者 E)

- ・大門商店街、大門地区ひいては塩尻市を元気（活気・活力）にしたい
- ・商店街（大門地区）がどのようになっていくことが望ましいか検討必要

(参加者 F)

- ・イベントをすれば人がたくさん集まれる地域
- ・人は皆、松本駅に行ってしまう
- ・町の活性化に必要なもの
- ・高校生が立ち寄るルートができていない
- ・外から見たイメージ 駅がなくなった ヨーカドーがなくなった

(ファシリテーター)

- ・若い人のみならず商店街や街の人にも参加してもらってSNSで発信したい
- ・大門の街づくりを全国に紹介したい
- ・まずは土曜、日曜から昼間の人通りを増やしたい
- ・街の新しいブランディングをしたい
- ・高校生が立ち寄れるようなルート

- ・マップづくり
- ・高校生が寄れる場所を増やす
- ・高校生はボランティアが大好き
- ・高校生が寄れる場所を増やす

(事務局)

- ・共創会議どう進めたら？つなぐ先にできる活動は？
- ・知りたい！ホコ天実験中。実際どう使おう。商店の反応は？

(まとめ)

- ・まずは土日の人通り
- ・高校生の活用
- ・地元の人による手作りマップ
- ・学生運営カフェ

■会議議事録

(参加者 A)

- ・富士見のまちづくりがとても良かった。まさか駅から歩いて楽しいと思っていなかった。おしゃれなお店がいっぱいあり、地元がすごいチカラを入れている。このような街の雰囲気
気がほしい
- ・富士見のようにまちづくりをしようとすると、塩尻のどの地区の人までと繋がっていけばいいのか

(ファシリテーター)

- ・この会議は中心市街地である大門を盛り上げる会なので、大門に限定した話でいい。
- ・もちろん大門以外の地域の人とつながってもいい。まずは今日集まった人から輪を広げていけばいいと考える。
- ・富士見町には、「森のオフィス」という施設があって、サテライトオフィスとしてテレワークしながら、地元でも活躍しているという話を聞いたことがある。子育て支援もあり市外から新しい人が入ってきていると聞いている。また地域のコミュニティも形成されていると聞いている。

(参加者 B)

- ・イベントを頻繁にやっているが、内輪でやっている感じがして商店街のものへ声をかけていない。仲良し同士でやっている感じがある。自分も商店街の片隅で経営しているが、一言も声をかけてもらえない。
- ・少しでも参加したいという気持ちはある。音頭を取っている人がいるならば、まずは店舗、飲食組合等のネットワークを使って、商店街の人を引き込んでほしい。その中にやれる人とやれない人がいるだろうが、まずは声をかけてほしい

- ・歩行者天国のイベントもお金出して車を止めているので、うまく活用していくと大門に来てくれた人たちの満足度も変わってくる。やった側の自己満足で終わらず、大門に来た人たちが「また来たい」と思い出になるように。
- ・第1回共創会議のアンケートでは、学生に関連する意見も多かった。小中高生が連れ立ってきてくれるようなイベントになればより素敵になるのではないか。もちろんそのためには、居心地が良いえんぱーくを中心とした大門商店街になれば。

(参加者 C)

- ・えんぱーく、ウイングロード、スナバといった施設はあり、街に人はそれなりにいるが、通りに人が出てこないということに疑問がある。そこから出てくるような場所がないのか、食べに行ける場所がないのか。施設の利用だけで終わっている感じがする。つながりという話からすると、拠点はああるが、その中にいる人が外に出てきて話をしたり、ご飯にいったりというのが感じられない。

(ファシリテーター)

- ・ある地方でも商店街はシャッター通りで人が歩いていないが、デパートの中には人がいることに驚いた。自分も横浜に住んでいるが、相当な人口密集地でないと平日の昼間に人が歩く風景はうまれにくい。
- ・拠点にそれなりの人が集まるとということには、人を回遊させるような、あるいは拠点の間に何か面白いものがあるって人が出てくるというポテンシャルが必要。
- ・まずは「土日の人通りを増やす」くらいのハードルから始めたほうがいい。仕事もあるので平日に賑わうのは東京の真ん中の商店街くらいで、全国どこいってもそうならないのが現実。

(参加者 C)

- ・人口の密集した都市を基準とした世の中ではないのかもしれない。

(参加者 D)

- ・この会議にいる人たちだけでも顔の見える関係性ができて、何かあったときに声をかけられるとか、自分の店に来た客に対して「ここ行ったら次ここ行くといいよ」というお互いに集客し合う関係ができたらいいなと思う。小さくてもやれることをやる。自己紹介の時に、郵便局の方が「できる範囲でお店を紹介している」と言っていたように、1人1人がやれる積み重ねも大事。
- ・街を上げての取組でいうと、塩尻大門マルシェは主催者が主たる仕事としてマルシェをやっているわけではないから、全部のお店に声かけるのは現実的に難しいと第3者の目線で思う。主たる仕事として街での取り組みをできる人がいないと難しい。目指すは自分のできることをみんながやって、つながりながら街一体となって、そこに個性あふれるお店があると面白くなっていくと思う。今は商工課や街カンなどがそこを担ってくれている

が、みんなを取り込める人が仕事にできればまた変わってくると思う。

(参加者 E)

- ・参加した理由は、大門地区、ひいては塩尻がもっと元気、活力がある街になってほしい、したいという思いから。活力がない原因はなにか。一般的な社会的要因もあるが、商店街でいうと商店のみなさんのやる気、本気度。また、まちづくりのリーダーが見受けられない。少し前は、大門商店街振興組合の加藤さんがリーダーシップをもって、ハロウィンイベントの計画立案等をやっていた。
- ・ウイングロードを街の核として作り、えんぱーくも当初は大門商店街を回遊してほしいとして作った。時代の流れでモーターレーゼーションにより郊外へ大型店ができて、市街地は空洞化してきている。大門ではどこに衰退の要因があったかを検証しておかないとどうすればいいかが分からないと思う。
- ・大門でもまちづくりは何十年もやってきているが進んでこなかった。大門商店街を再生するように聞こえるが、そもそも大門地区をどうするか、住宅街にすることも検討する必要があるのではないかとも思う。商店もあって優良な住宅街としたいのであれば、その方向を目指すなど原点になるものを検討すべきではないか。

(参加者 F)

- ・塩尻に来て 3 年目。駅が移ったのとイトーヨーカ堂が撤退して街がだめになるのかと思っていたが、共創会議の話を知るとすごく頑張ろうとしていることに驚いた。
- ・高校教員の立場としては、高校生がえんぱーく以外の目的で大門に来られればと思う。具体的にどうすればいいかはわからないが、高校生が立ち寄るルートができればひとつ大きなこと。授業でも頑張っている生徒もたくさんいるのでもっと高校生を有効活用して、巻き込めれば活性化につながるのではないかと思う。大門はイベントを開催すれば人が集まる。先日の歩行者天国の際も多くの人が集まっていた。

(ファシリテーター)

- ・郊外にも圧倒的な商業空間ができているなか、かつてのような人通りになるのはなかなか難しい。大門の目指すべき方向性は、郊外の大規模店と対抗する話ではなくて、コミュニティビジネスのような、人と人の距離が近い商店街づくり、人づくりかもしれないと思う。そこに高校生を有効活用するだとか。子どものうちに商店街で原体験となるような経験をしてもらわないと、大人になってからも戻ってこようと思わない。理想はもちろんあると思うが、いきなりそこへいくのはハードルが高いので、まずはちょっとしたことから始められれば。

(参加者 C)

- ・駅前から大門をどういう方向性にしていくかを過去に議論をしていたが中途半端で終わっているような気がしている。日本の街は基本的に駅（鉄道）中心でつくられた。我々の実際の暮らしは車ベースであり、車ベースの街にしなければいけないのに、都心と合わせた鉄道中心という考えになっており地方には合っていない。立体駐車場はあるが、実際は平場の駐車場が一番であり、地方は車無しで生活できないのでミスマッチが起き、その結果が現地に出ている。

(参加者 E)

- ・地域公共交通の在り方も課題になっており、しっかりしているか、していないかで市町村の衰退に関わってくる。

(ファシリテーター)

- ・これだけのやる気のある人が集まるのは塩尻のポテンシャル。今日で何か結論がでるものではないけれど、高校の先生も参加されているので、若い人に参加いただくとか、活用するとかを次のステージで考えても面白いと思う。

(参加者 B)

- ・これほど動ける人がいるってことは商店としても非常にありがたい。これまで考えていたことでは凝り固まっている部分がたくさんあるので、新しい人の意見を聞くことで可能性が広がる。そういう人たちとコラボできればと思って参加している。

(参加者 E)

- ・高校生が寄る場所が多ければいいと思うが、長商デパートみたいなことをやると生徒の参加はできるか。

(参加者 F)

- ・7月の文化祭では似たようなこともやっている。場所を大門に移すとかはできるかも。
- ・高校生はボランティアが大好きで、募集すれば集まる。小学生は保護者が付き添いになるが、中学生以上は一人でもボランティアができる。

(参加者 B)

- ・アンケートで意見の出ているマップ作成はとてもいいと思う。高校生にやってもらっても。

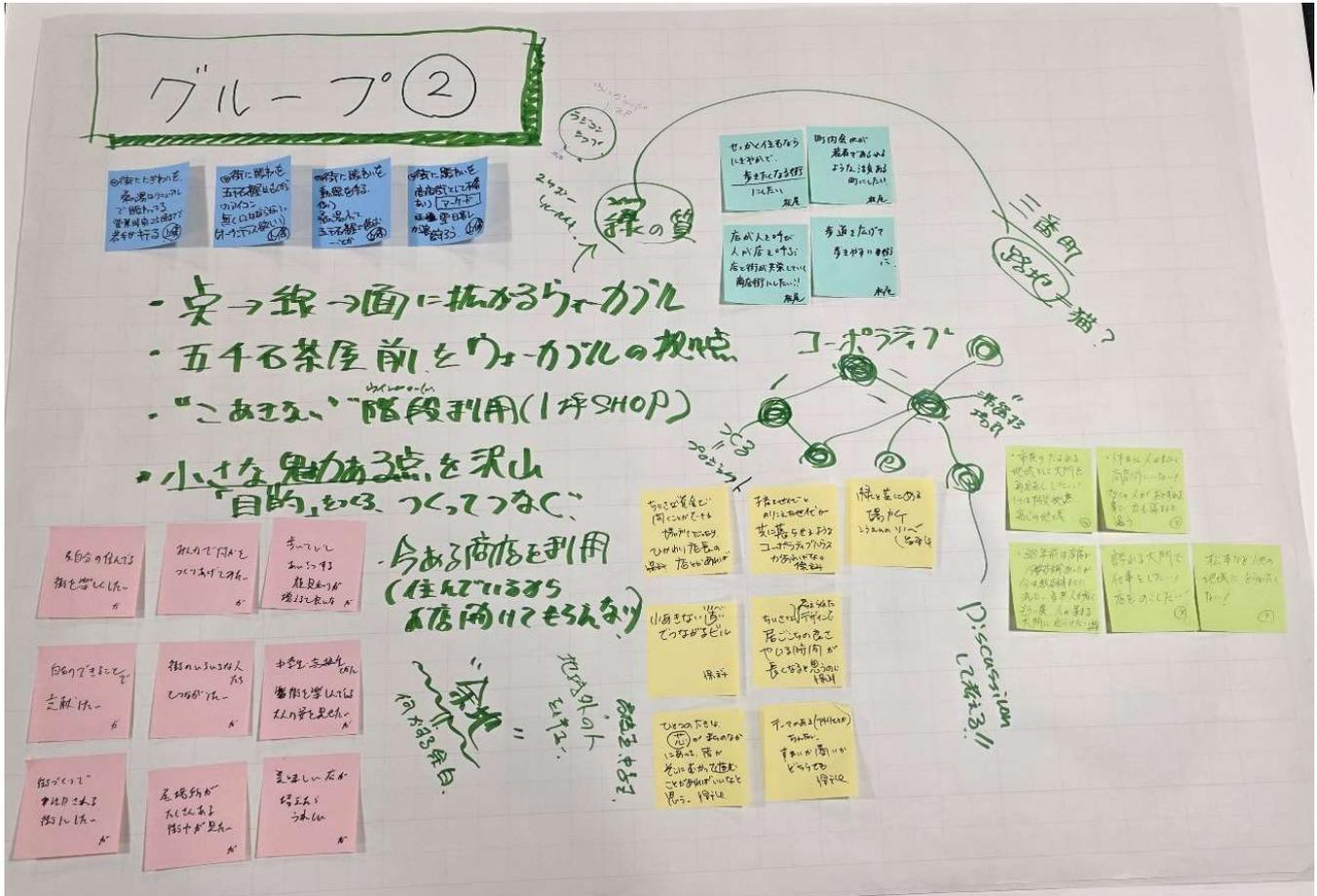
(参加者 A)

- ・富士見町はマップを見ても楽しかった。地元の人の手作りだった。

2班議事録

ファシリテーター：(株)UG 都市建築

■模造紙



■付箋内容

(参加者 A)

<街に賑わいを>

- ・ 桑の湯はリニューアルで賑わっている。営業時間 25 時までで若手がキテル。
- ・ 五千石茶屋は古くからのアイコン。無くしてはならない。(オープンテラス欲しい)
- ・ 動線を作る 桑の湯に入って五千石茶屋で飲むとか
- ・ 商店街として不備あり (アーケード) 雨雪日差しから客を守ろう

(参加者 B)

- ・ せっかく住むなら賑やかで歩きたくなる街にしたい
- ・ 町内会が若者であふれるような活気ある町にしたい

- ・店が人を呼び人が店を呼ぶ。店と街が共栄していく商店街にしたい
- ・歩道を広げて歩きやすい街に

(参加者 C)

- ・自分の住んでいる街を楽しくしたい
- ・みんなで何かを作り上げてみたい
- ・歩いて挨拶する顔見知りが増えるといいな
- ・自分のできることで貢献したい
- ・街のいろいろな人たちとつながりたい
- ・中学生、高校生とかに街を楽しんでいる大人の姿を見せたい
- ・街づくりで注目される街にしたい
- ・居場所がたくさんある街中が見たい
- ・美味しい店が増えたらうれしい

(参加者 D)

- ・小さな資金で開くことができる場所だったり、日替り店長の店とかあれば
- ・子育て世代と乗り越えた世代が共に暮らせるようなコーポラティブハウスがあればな
- ・緑と共にある場所（公園のリノベ）
- ・小商いで繋がるリノベの古いビル
- ・小さな考えられたデザインで居心地の良さや居る時間が長くなると思うのに
- ・ひとつの大きな芯が街の中にあって皆がそこに向かって進むことがあればいいと思う
- ・テーマのある（アトリエとか）賃貸。住まいか商いかどちらでも

(参加者 E)

- ・市民の頼れる地域として大門を再見直ししたい！ひとつは防災拠点。安心の地域
- ・休日に人がまったく商店街にいない！多くの人が訪れることで店も集まると思う
- ・38年前は商店が194店舗あったが今は数店舗までに減った。当然人も少なくもう一度人が集まる大門に近づきたい。
- ・誇れる大門で仕事をしたい！店を残したい。
- ・松本などの他の地域にとられたくない！

(まとめ)

- ・天→線→面に拡がるウォークブル →緑の質—三番町 路地＝猫？
- ・五千石茶屋をウォークブルの拠点
- ・“こあきない“ウイングロード階段利用（1坪SHOP）
- ・小さな魅力ある点（目的を作る）をたくさん作って繋ぐ

- ・今ある商店を利用（住んでいるからお店開けてもらえない）
- ・“余地”＝何かする余白 地域外の人を?? 高校生中学生
- ・ウイングロード 2 Fーラジコンショップ（松本） 2坪ルール

■会議議事録

（参加者 A）

- ・基本的には道の賑わいを。
- ・リニューアルオープンした桑の湯には、若い客がたくさん来ている。営業時間が遅くなって専門学校の人とかが来るようになったから。
- ・五千石茶屋は昔からあり、提灯の雰囲気も良くて、塩尻のまちの中のアイコンのような店。歩行者天国にしてオープンテラスにして飲めるようにしたら外国人にうける。
- ・店それぞれだけで終わらず、桑の湯でお風呂に入ってそのまま五千石茶屋で飲むなどの動線を作ると、人の流れができて、近くの店にもお客さんが入ることになる。
- ・塩尻は商店街にアーケード、屋根がない。岐阜に行った際、アーケードがあったので傘がいらなかった。雨雪日差しからお客さんを守らないとお客さんは来なくなる。

（参加者 E）

- ・昔はあった。35年前ごろに老朽化の流れで直さずに壊すということになった。

（参加者 B）

- ・大門に家も仕事場もある。せつかく商店街で商売をやって住むなら歩きたくなる、にぎやかな街にしたい。
- ・歩きたくなる街＝お店が多く景観がきれいな街。今の大門商店街の景観はきれいではない。できるなら歩道を広げて植栽やベンチを置いて犬の散歩をしたいと思うような、きれいな街にしたい。
- ・お店が増えたらいいなという思いもあるが、現状の客数だと新しくお店を出したいと思えない。お店が人を呼んで、人がにぎわうことでお店が増えていく。お店と街が共栄していくようなサイクルを作れるような街にしたい。
- ・町内会には年配の人が多く新しい若い人は入らない。若者から入りたいと言ってもらえるような活気のある町内会、街にしたい。

（参加者 D）

- ・歩きたくなる街にするために、店の外にテラスがあるといい。大門は緑が足りないかも。

（ファシリテーター）

- ・いきなり全部実現させるのは難しい。お店一つをターゲットにして活動を始めて、それを広げていって点を線にしていくプロジェクトを始めるなど。この共創会議はみんなでそういうプロジェクトを作っていく場だと思っている。
- ・「緑」というのも、塩尻ならではの緑の作り方がある。なんでも植えればいいということ

ではなくて、しっかりとデザインをして植えるべき。

(参加者 C)

- ・歩いてみると、手入れのされていない草が生え遊具がボロボロな街区公園がたくさんある。個人の家でも広い家庭菜園とか緑地を持っている家がある。そういう緑のある場所をつなげていったり手入れをしたりしたい。何を作るにしても緑地率というデザインコードを決めたりするのが必要では。
- ・一番やりたいのはコーポラティブハウス（入居者らが建物の設計から管理までをする、住む人が作る家）。若い人、年配の人、いろんな人が共に暮らすというように、混在していることが大事。今は二人子ども、一人子ども、シングルなど、所得によって住むところが決まってしまう。
- ・最近いろいろな街を見ていると「小商い建築」が多い。雑貨作るなどの小さな商いをして人たちが商売できるような雑居ビルが塩尻にも必要。雑居ビルを5000円くらいで間借りしてアトリエとか住まいを作るとかすればもっといい。
- ・子育て世代と年配が共に暮らせて助け合える場所が欲しい。テーマのある賃貸とか、ビルを作りたい（アトリエ付きとか）
- ・何をしても一つ大きな核があってそれに向かってみんなが街を作っていくというのがあればもっといいのかな。

(ファシリテーター)

- ・昔仕事である都市の公園を巡ったとき、魅力が全くないと感じた。今はパークPFI制度などがある。公園という公共空間を、民間を使って面白くするという仕組み。その「民」の部分を住民が担うことができると面白い。
- ・緑の質、建物の中の質の話や小商いは面白いテーマ。その面白いテーマをもとにプロジェクトを始動していきたい。商業の点を線につなげていく。建物を、テーマ性をもって運営していくなど。

(参加者 D)

- ・移住5年目。自分が住んでいるところを自分たちでよくしていきたいという思いで参加。
- ・モノづくりや建築をやっていた。アイデアをいったん形にして作ってみるというのもいろいろの人とできたらいい。
- ・だんだん知り合いが増えていくと、まちを歩いている中で知り合いと出会えるようになる。そういう関係性ができるといい。今回は初めて会う人も多いので、まちなかで話せるような関係性の人がこれを機に増えていくと嬉しい。
- ・自分は何かを作ったりできる。いろんな街を見てきた。アイデアも出せる。そういうところを使って貢献ができればいいな。

- ・高校生向けのプログラムを仕事でやっている。高校生がデートする場所がない。今までは線路沿いの駐輪場、連山の前の木の下でカップルが話していた。木が切られてしまって今は周りから丸見え。
- ・高校生にとっても居場所があるといい。高校生だけではなく自分たちや年配の方も立ち話したりたたずんだりできるような外の場所。そういう場所を作るために、緑とかアーケードとか建築的な仕掛けも必要。
- ・人が滞留できる場所がどんどん増えていって、人が歩いている街にしていきたい。今は人が歩いていないが、まちづくりをしていくことでそのうち人が増えていって、周りから「塩尻のまちづくり面白いよね」と興味を持ってもらえるようになる。
- ・その中で、おいしい店、塩尻ストア（外からきてやってくれるお店）とかが増えていく。飲み歩きが始まるとウォーカブルになる。

(ファシリテーター)

- ・飲むのと温泉を組み合わせるのがこの町っぽい。
- ・ウォーカブルは実際のところ何をしたらいいかわからないことが多々ある。目的もなく道を広げてベンチを置いても人は座らない。ウォーカブルの目的を作る、というプロジェクトを始動しても面白い。この会議の中だけでもデザイナーとかアーキテクトとかがいっぱいいる。協力してデザインを考えていければ。

(参加者 C)

- ・居場所がたくさんあると、「そこに行く人と人に会えるから行こう」となる。それがウォーカブルにつながる。

(参加者 D)

- ・小さな目的地がたくさんあることが必要。

(ファシリテーター)

- ・小さな目的地がたくさんあって、そこが星座のようにつながっていくことが大事。ただお店が点々とあるだけではなくて、「お店同士をつなぐベルトを作ろう」、「どのお店がどのような観点でつながるか」という議論をしていくことができるといい。

(参加者 E)

- ・もともと東京にいて31歳の時に塩尻に来た。その時は商店街に194店舗の店があった。廃れていくのを見ており、危機感もあったが、昔は何も変えることができなかった。今は若い人で考えを持っている人が増えてきて、機が上がってきている。
- ・えんぱーく東側の駐車場の整備、八十二銀行の横のサテライトオフィスを手掛けるなどを行ってきた。大門に人を呼ぶためには、まずは人を住ませなくてはいけないと思い、自分でマンションを作った。
- ・(今の大門商店街は)とにかく店が空かない。古いお店の建物に“住んでいるだけ”の人が

いる。商売はもうやめているけれど、住居として使っているからどかない。何とかしてそういう建物を空けてもらって、お店を入れられないかという取り組みを街カンでやっている。

- ・使っていない建物を空けてほしいとお願いしても、断られることが多い。商売をやっていないからと町内会にも入らないこともある。
- ・今の時点で使える空白があるえんぱーくとウィングロード（WR）を使いたい。WRには地下に降りる階段があるがボロボロで何も使われていない。そこに二坪ショップを作って、チャレンジショップなどの面白いお店が土日に出店して人が集まるような仕組みを作りたい。今空いていて使えるところにお店を入れるなどしていきたい。
- ・今大門商店街はラーメン屋が多くなってきている。無奏天生、シオジリストア、グルメ、中心会館。塩尻のラーメンツアーみたいなものがないか。ラーメン食べ終わったら桑の湯のお風呂入って、そのあと飲みに行くみたいな。今いる商店をつなぎもっと面白い街にできるのではないか。

（参加者 A）

- ・大門が住宅ばかりになってしまうと、もう商店街ではなくベッドタウンになってしまう。

（参加者 E）

- ・今の塩尻は、あくまでただの店の塊で、商店“街”ではない。
- ・この地区後継者3人しかいない。このままだと店も続かない。新しい取り組みをしていかなくはない。

（ファシリテーター）

- ・皆さんの話を聞いて大事だと思ったこと。キーワードをまとめる。
- ・五千石茶屋、桑の湯などを点にして線とか面にして繋がっていく。ウォークアブル。
- ・緑の質
- ・小商い、階段利用、一坪、コーポラティブなどの小さいものが雑然としているようなイメージ感
- ・小さい魅力を作ってたくさん作ってそれらをつなぎ合わせていく。
- ・歩きたくなる仕組みは誰がどうやって作るのかがこの会議の本質。
- ・階段に座る風景を作ってほしい。WRの階段は人が座るような感じではなく見えるけれど、ヨーロッパに行ったら階段なんて座るもの。座面を工夫してみるとか。そうすると高校生カップルも座るようになるかもしれない。
- ・整理も独善的で恐縮、他に何か言いたいことがあれば。

（参加者 D）

- ・余白があるのは塩尻の魅力、余白にこういったものを詰め込んでいける余地がある。松本

だどぎちぎちでできない。ここは商いできる。商いじゃないけど集まれるとか。

- ・まちなかに面白くて遊べるところ(急に卓球台が現れるとか)を作って歩きたくなる街を。

(参加者 C)

- ・三番町にあるような、車も通れない細い道は意外と人気がある。緑もあって「なんかいい」感じがする。緑と路地をつないでいくような神秘的なところがあってもいいなとか。
- ・考えられた場所、考えられたデザインは人が滞留する場所を生む。たださっと作るんじゃなくて、ちゃんと考えて作った方がいいのではないか。みんなでディスカッションして作っていく。

(参加者 E)

- ・この会議の参加者が Core 塩尻の空きスペースで、ガラスに鏡を置いて中高生がダンスの練習をできるようにする取り組みをやっている。
- ・高校生や大学生が大門に遊びに来たいと思うものを考えるべき。松本とか岡谷とかの若い人が「大門は面白い」と来てくれるようなものを作りたい。違う地域の人を惹きつける面白さを。上諏訪駅の前にあるお店は、市外からでも行きたいと思う。

(参加者 C)

- ・上諏訪には Rebuilding center JAPAN とかがある。小学生や中学生にも来てもらいたい。

(参加者 A)

- ・市外の人や子供を呼びたいならラジコン。松本の興文堂でやっている。すごく混んでいる。ウィングロードにもそれができるスペースもある。やれば子どもを呼べる。

(参加者 E)

- ・昔はやった。豚のレースもやった。

(参加者 B)

- ・ベイブレードとかラジコンとか。ヨーカドーの上でやっていた。

(参加者 D)

- ・高校生たちは隠れてスケボをやっている。彼らと話してみると、松本も含めてスケボをやっている場所がないから遠くまで行くか、隠れてやるしかない。スケボをやっているところを作ればいい。ここでやってもいいけどここはダメという線引きをしてあげる。

(参加者 E)

- ・スケボのための場所を作れば、親もついてきて人を集める仕組みにはなるかも。

(参加者 B)

- ・商店街の人たちがそれらを許せる寛容性を持てるといい。

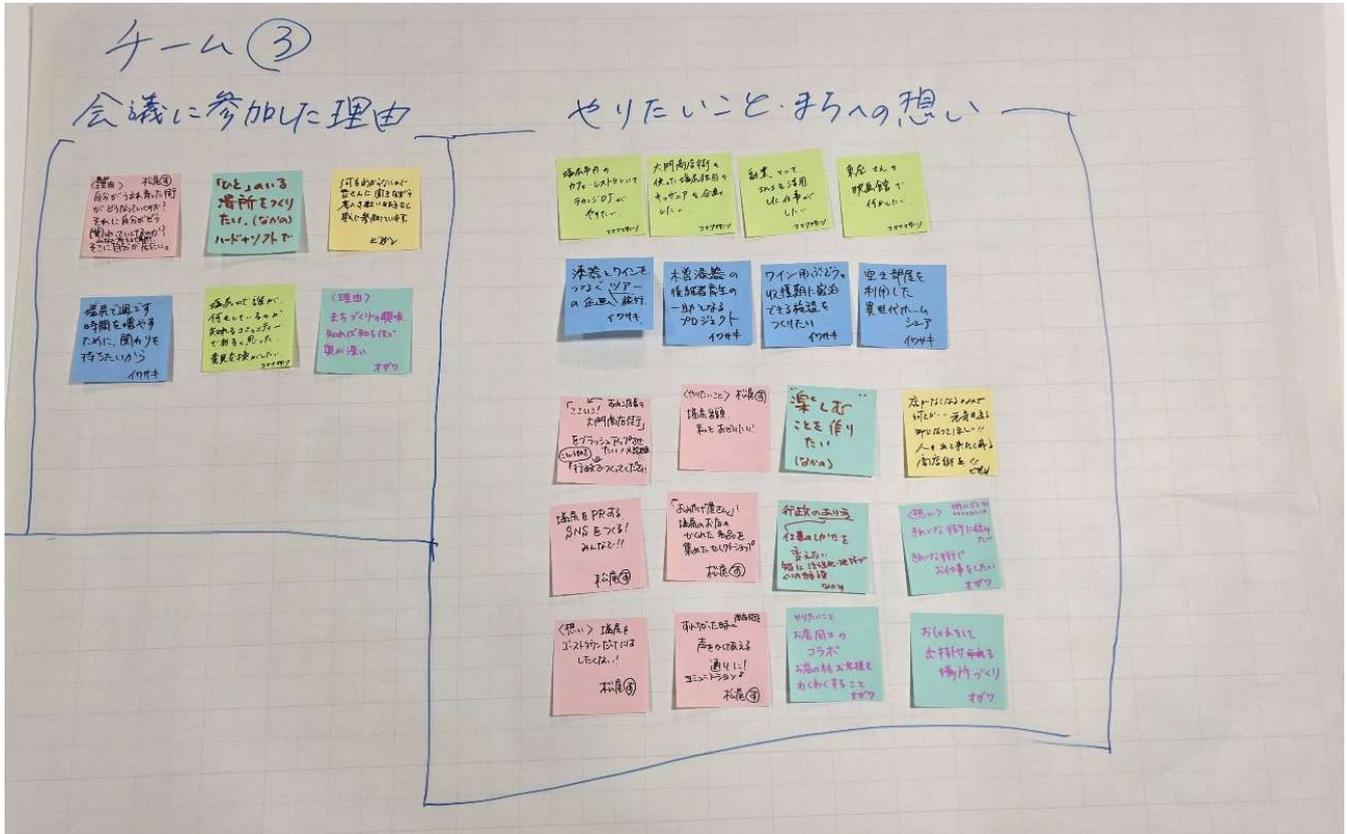
(ファシリテーター)

- ・お祭りのときは歩行者天国にするのなら、スノボに対しても、とある日だけ歩行者天国にして、スケボできる日を作るとか。

3班議事録

ファシリテーター：(公社)全国市街地再開発協会

■ 模造紙



■ 内容抜粋

<会議に参加した理由>

(参加者 A)

- ・自分が生まれ育った街がどうなっていくのか？それに自分がどう関わっていただけるのか？
共創会議はみんなで考える場所。そこに自分が居たい

(参加者 B)

- ・「ひと」のいる場所をつくりたい。ハード+ソフト

(参加者 C)

- ・何もわからないので皆さんに聞きながら考えさせていただきたく感じ参加。

(参加者 D)

- ・塩尻で過ごす時間を増やすために関わりを持ちたいから

(参加者 E)

- ・塩尻で誰が何をしているのか知れるコミュニティであると思った。意見交換がしたい。

(事務局)

- ・まちづくりへの興味 知れば知るほど奥が深い

<やりたいこと・まちへの想い>

(参加者 E)

- ・塩尻市内のカフェ、レストランにてラウンジDJがやりたい
- ・大門商店街を使った塩尻独自のキッズニアを企画したい
- ・副業としてSNSを活用した仕事がしたい
- ・東座さんの映画館で何かしたい

(参加者 D)

- ・漆器とワインをつなぐ旅行ツアーの企画
- ・木曽漆器の後継者育成の一助となるプロジェクト
- ・ワイン用ぶどうの収穫期に宿泊できる施設を作りたい
- ・空き部屋を利用した異世代ホームシェア

(参加者 A)

- ・すみこ店長の「ここいこ！大門商店街」※絵地図 をブラッシュアップさせたい。 →こ
ういうものを行政で作ってください
- ・塩尻をPRするSNSをつくる！みんなで！
- ・「おみやげ屋さん」塩尻のお店の隠れた名品を集めたセレクトショップ
- ・商店街をすれ違った時に声を掛け合える通りに！コミュニケーション♪
- ・塩尻をゴーストタウンにだけはしたくない！
- ・塩尻音頭私も踊りたい

(参加者 B)

- ・“楽しむ”ことを作りたい
- ・行政のあり方 仕事の仕方を変えたい 特に活性化、地域づくりの施設

(参加者 C)

- ・店が無くなるのみで何とか元気の出る街になってほしい！人が出てきたくなる商店街を！！

(事務局)

- ・おしゃれをして出掛ける場所づくり
 - ・街にごみが無くてびっくり きれいな街に住みたい きれいな街でお仕事をしたい
- ・お店同士のコラボ お店の方もお客様もわくわくすること

■会議議事録

(参加者 E)

- ・塩尻で生まれて40年。誰が何をやっているか知れるコミュニティがなかった。今回こう

いった機会があり、意見交換がしたく参加をした。

(参加者 D)

- ・ 昨年の夏から横浜と塩尻の二地域居住をしている。仕事のメインは向こうで、なかなか塩尻に来る機会を増やせなかった。今後は塩尻で過ごす時間を増やしたい。

(参加者 C)

- ・ 皆さんの意見を聞きたい。そこから勉強をしていきたい。

(参加者 B)

- ・ 人のいる場所を作る仕事がしたいと思っていた。
- ・ 以前仕事で平出遺跡の設計を担当。人が居る空間を作るためにどうしたら良いかを考えたが、志半ばで異動。「えんてらす」は別の方が設計をされたが、人が居る場所にするには何をしてどうしたら良いか、思案しながら管理を6年間やってきた。「えんぱーく」も活性化に関わっていたが、途中で異動。
- ・ 人が集う場所の構築のために、ソフトはどうしたら良いか。いつも中途半端で終わってしまうため参加した。

(参加者 A)

- ・ 塩尻で生まれ育ってきた。三姉妹の長女。夫は修行先の上司。その時すでに家が古く、2019年にマンションと店舗の一体型に建て替えた。
- ・ 塩尻の行く先が心配。塩尻の商店街が今後どうなっていくのか。モータリゼーションがその後どうなるのか。商店をやっている身としては怖かった。大型店が郊外にできた後の商店街の姿を見てきたので、今後の街の姿も想像ができてしまう。この先の商店街を考えたとき、ゴーストタウンの中に古ぼけたビルは残したくない。
- ・ 人が住むような街にしなくてはいけないという思いから、マンションを作った
- ・ 若い頃からこの先どうなっていくのかすごく心配だった。今、商店街単位で何とかしなくてはいけないというところを超えた機運が、『元気玉』のように高まってきている。ワクワクするこの場所に身を置きたいと思って参加している。

(参加者 E)

- ・ 人が集う場所である松本で、十数年 DJ などの活動をやっている。松本は面白い人が集い、街が活性化している。
- ・ 今塩尻市は、正に『元気玉』がある。“ウェルカムしおじり”は衝撃を受けた。塩尻はこんな街だったのか？と。塩尻市に活動の場を広げ、何か面白いことが出来たら。
- ・ 商店街でキッズニアのような職業体験を行ってみたい。元気のある0歳~12歳子どもた

ち世代に焦点を当てて、商店街を活用していきたい。

- ・地方では副業がほとんどない。SNS を活用して困りごとを解決したい。
- ・自分は映画も好きで、コアな映画を上映している東座さんについても何かしたい。
- ・外に派手にアピールをしないところは塩尻の良いところだが、歯がゆい。何か絡めてアピール出来たら良い。
- ・今まで塩尻から引っ越そうとは思ったことはなかったが、何かやるとしたら松本市という認識。そういう場を今後は塩尻で作れたら良い。

(参加者 D)

- ・空き家・空き部屋の利活用をしたい。ボロボロになった空き家に手を入れると資金がかかるが、空き部屋なら資金はさほどかからない。
- ・異世代ホームシェア。例：次世代下宿“京都ソリデール”、”NPO 法人街 ing(マッチング)本郷が、東京文京区で展開している“書生生活”。
書生性格は東大生が商店街の店舗に住む⇒商店街の中に人口が増える⇒即消費者になる⇒商店街に還元される⇒将来的に何かやってもらえる可能性が生まれる、という仕組み。
- ・塩尻は漆器とワインの街。だが大門にはそれらに触れる場所がない。平沢まで行くハードルの高さを何とかしたい。宿泊施設がないためワインの収穫期に塩尻に来難い、という声を聞く。それを空き部屋の活用で解決できないか。ワインの街だが、
実際ワインはどこで買えるのかが分からない。塩尻駅にはあるが、多くの方に販売場所が分からないのは解決したい。
- ・旅行のツアーを企画したい。他の職業の方との繋がりや関係人口の構築につながるツアー
- ・現在は横浜在住で、千葉などを転々としており、塩尻に所縁はなかった。山田崇さんのセミナーで塩尻を知り、木曾漆器の職人さんを紹介して貰ったのが 2018 年頃。コロナ禍を挟んで現在に至る。

(参加者 C)

- ・ご主人を亡くして 2 年。相次ぐ引っ越しなどで片付けが大変。家をどうしたら良いか。そのことで頭がいっぱい。

(ファシリテーター)

- ・商店主さんご自身が始めたことを畳む時が大変。それを誰かがサポートできるという話が出てくると、より働きやすい環境になる。

(参加者 C)

- ・なるべくお金をかけないで、きれいにしたい。忙しくて気付くと朝になっていることがある。

(参加者 B)

- ・楽しむことを作りたい。
- ・先日大門で開催された、「えんぱーくピクニック」へ提案がある。使われていないスペースを活用して非日常的なことをしたい。例えば道路への落書き。普段道路に落書きはできない。後のことも考えなくては行けないが、昔は路地に文字が書けた。
- ・自分は昔市役所に勤めていた。建物が出来たら完成ではないと思っている。再開発も同じ。造ってから、使って、人が来て、楽しんで完成。えんぱーくは使い方によってもっと楽しくなる。えんてらすはえんぱーくの 1/5 もないスペースなのにいつも活気があり賑わっている。
- ・公共施設は 10 年経つと設備が古くなり、リニューアルをする。えんぱーくができた時、画期的な施設だと全国から視察がたくさん来て、えんぱーくを真似した施設が全国にできた。みんな真似をして同じような施設を造るため、全国の事例の中に埋もれてしまう。でも運営者としての意識は絶対埋もれない。

(参加者 E)

- ・えんぱーくを自由に使えるようになるということにはあまり期待はしていない。(以前えんぱーくを使おうと話をもち掛けたとき、断られた)

(参加者 B)

- ・管理者としても使い方の意識は変えないといけませんが、期待しすぎないで。管理側には、使いたい人たちが使いやすいように、柔軟性を求める。

(参加者 E)

- ・今後自分でトレジャークエストをえんぱーくの一角で行う。少しずつ少しずつ出来ることを重ねていく。

(参加者 A)

- ・都はるみさんが歌っている“塩尻音頭”を踊りたい。昔は玄蕃まつりでも踊っていた。
- ・みんなで何かを作りたい。コミュニケーションを取り繋がりたい。あったかい人間関係を構築したい。何か生まれるときに対面で話すと思いが伝わって、小さいことでも繋がっていく。(自身が担当している「シリゼミ」でも、えんぱーくを利用できるようになった。)
- ・また、まちづくり等の活動の PR の仕方を知りたい。届かせたい人に届く PR が出来ていない。
- ・塩尻のお土産屋さんに塩尻市のものではないものが販売されている。まずくて食べられないような物ではなく、塩尻の銘品が扱われるようになって、それを PR するようにしたい。
- ・大門の絵地図を自費で作成した。商工会議所では、会員でないと載せられない、漏れがあるといけなとの話だった。しがらみのない、きちんとした情報の、かわいい絵地図を塩尻市で作って欲しい。

(ファシリテーター)

- ・どこの市もアイデアは出るが、これは誰がやるか、となると止まってしまう。みなさん“自分がやる”というスタンスがすごいと思う。

4 班議事録

ファシリテーター：しおじり街元気カンパニー

■ 模造紙



■ 付箋内容

<参加した理由>

(参加者 A)

- ・塩尻の街の人と知り合いたい
- ・塩尻のことを知りたい

(参加者 B 子)

- ・居たい場所になるのか
- ・大門が楽しい街になるのか

(参加者 C)

- ・知り合い増えたらうれしい
- ・何かあるかなって思って

(参加者 D)

- ・大門地区の未来についていろんな考えを聞いてみたい 私に何ができるか？

(ファシリテーター)

- ・主催者として

【①高齢者】

(参加者 B)

- ・子どもからお年寄りまで集う街

(参加者 C)

- ・うどん出すか・・・

(参加者 D)

- ・高齢者、障がい者が行きやすい街
- ・PRしたい方 是非 高ボッチFM参加者 D まで

(ファシリテーター)

- ・子どもや孫に秘かにでもよいので誇れる街にしたい

【②情報整理】

(ファシリテーター)

- ・わくわくした店がいくつもある街にしたい

(参加者 C)

- ・みんなの小さいやりたいことがいっぱいできるといいな
- ・めざせ！行く用事が3つある商店街

(参加者 A)

- ・面白そうにしていれば人は勝手に集まる
- ・情報が混乱している

(参加者 D)

- ・私が声で伝えられることは？

【③情報整理の後、やりたいこと、できること】

(参加者 C)

- ・「大門界限イベント」またやりたい
- ・駄菓子&カフェ 細々でも長く続けたい
- ・商店街えんぱーくの常連さんと顔見知りになりたい

- ・こどもマルシェやります

(参加者 A)

- ・演劇等
- ・スタジオか小劇場をつくる

(参加者 D)

- ・高校生、学生出店参加

(参加者 B 子)

- ・大門にもっと店を
- ・イベントへの参加

(ファシリテーター)

- ・学生が集える空間づくり（えんぱーく以外で）
- ・若い人を育てる 地主さんの説得

■会議議事録

1. 付箋記載事項

(1) 共創会議への参加した理由

(参加者 A)

- ・塩尻の街の人と知り合いたい
- ・塩尻のことを知りたい

(参加者 B)

- ・大門が楽しいまちになるのか、どんな人がいるの？
- ・どうすれば居たい場所になるのか

(参加者 C)

- ・知りあい増えたらうれしい
- ・なんかあるかなって思って！！

(参加者 D)

- ・大門地区の未来についていろんな考えを聞いてみたい、私に何ができるか？

(2) 街への想い

① 高齢者にもやさしい街を

(参加者 B)

- ・子供からお年寄りまで集う街

(参加者 C)

- ・えんぱーく 1 階で駄菓子屋カフェをやっている。高齢者から「うどんなどがあると高齢者も行きやすい。うれしい」という話があった。

(参加者 D)

- ・高齢者、障害者が生きやすい街にしたい

② 情報の発信などの整理が必要

(参加者 A)

- ・情報が混乱している印象がある

(参加者 D)

- ・PR したい方ぜひ高ボッチ FM 参加者 D まで。ラジオを通して自分の声でできるだけ情報を伝えているが、視聴者が限られているのが残念

(ファシリテーター)

- ・どのように情報を伝えるかはいつも課題になる。まとまった発信方法があれば良いが・・・

③ 街の全体的な視点

(ファシリテーター)

- ・子どもや孫にひそかにでも良いので、誇れる街にしたい
- ・えんぱーく以外で学生が集える空間づくり

(参加者 D)

- ・高校生、学生が出店参加できるしくみづくり

(参加者 A)

- ・面白そうにしてれば人は勝手に集まる

(ファシリテーター)

- ・ワクワクできる店がいくつもある街にしたい

(参加者 C)

- ・みんなの小さいやりたいことがいっぱい実現できるといいな
- ・めざせ！行く用事が3つある商店街

④ やりたいこと

(参加者 C)

- ・「大門界限イベント」またやりたい
- ・駄菓子&カフェ細々でも長く続けたい
- ・商店街、えんぱーくの常連さんと顔見知りになりたい
- ・こどもマルシェやります

(参加者 B)

- ・大門にもっと店を増やしたい

(参加者 A)

- ・スタジオか小劇場を作って演劇をやりたい。
- ・演劇祭

(ファシリテーター)

- ・地主さんの説得など、地道なことは街カンで。

2. 付箋についての意見交換

○参加理由意見

(参加者 B)

- ・この会の目指す所はどこなのか

(ファシリテーター)

- ・情報の横のつながりや人をつなげるのが現在の目的

(参加者 B、参加者 C)

- ・歩行者天国とかまちのイベントに対して色々やりたい人がある

(ファシリテーター)

- ・情報の告知など行政のシステム上うまく出来ないのも、その告知の方法とか意見がほしい

(参加者 A)

- ・情報が混乱していると感じている、どの情報がどこで手に入るのかがはっきりしなく上手くマッチングしていないのではないかと

(参加者 D)

- ・高ボッチ FM を活用してほしい

○街に対する思い

(参加者 B、参加者 D)

- ・ターゲットが若者や中間層を見過ぎている気がするのも、高齢者にもやさしいバリアフリーのまちづくりも考える必要がある
- ・若者だけでなく高齢者や障害者にやさしいまち
- ・高齢者の集う場所があまりない（えんぱーくでの将棋などはあるが。）

○やりたいこと

(参加者 B)

- ・カフェがほしい

(参加者 A)

- ・商店街の空き家対策（小劇場化など）
- ・商店街の記憶などを演劇として伝える

(参加者 D)

- ・まちにあるお店などの場所を知ることが大切
- ・生まれ育ったまちでの活動の記憶が大切

- ・思い出に残るまちになることで大人になっても戻って来たいと思う街になる
- ・ワインカステラは先生が頑張っている感じがするので、自発的に高校生がやれる場所や機会が大切

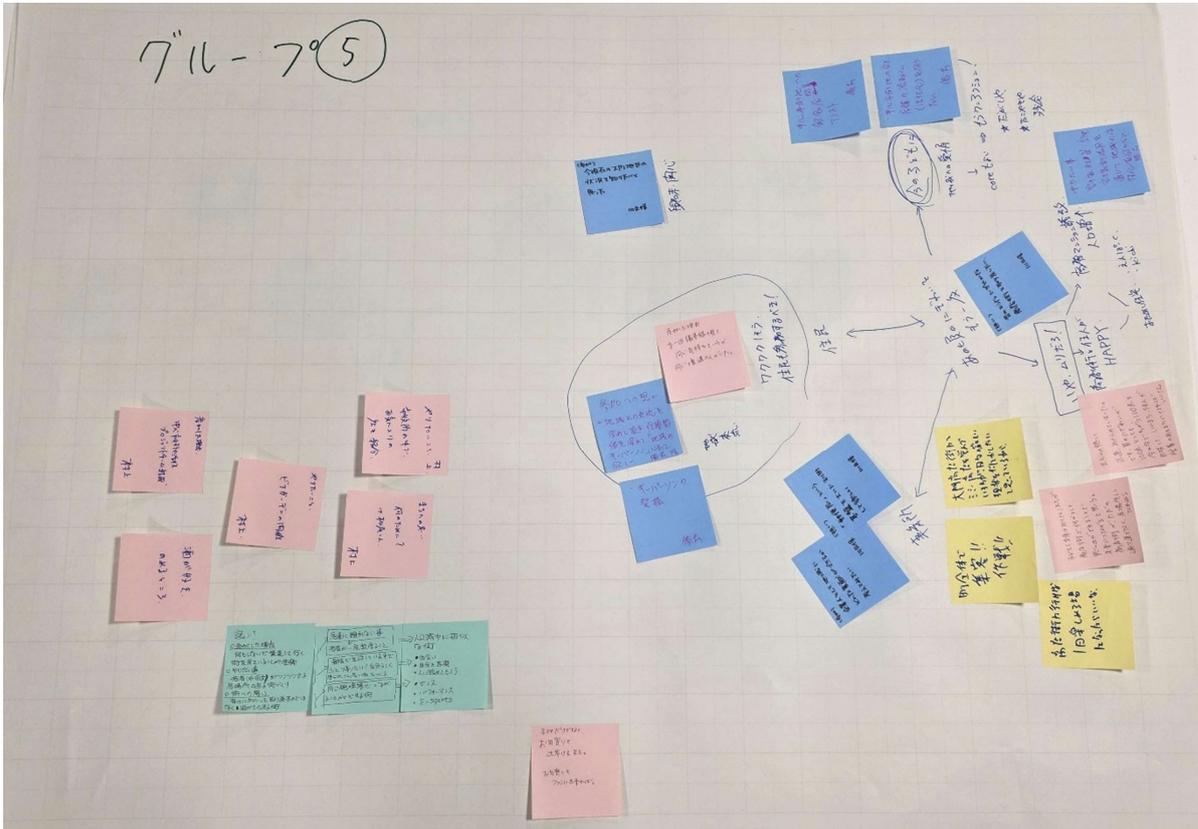
(ファシリテーター)

- ・みんなが面白く思うような企画の実施

5班議事録

ファシリテーター：市職員

■模造紙



■付箋内容

(ファシリテーター)

- ・ 中心市街地活性プロジェクトチーム結成
- ・ 市役所の中でお気に入りの店を紹介
- ・ ビアガーデンの開催
- ・ 何のために？→松尾くん
- ・ 酒が好き 飲めるところ

(参加者A)

- ・ 何もしないで衰退していく街を見ていることが苦痛
→急速に廃れないこと→若者が一定数いること ⇒人口減少に似た街
- ・ 若者(中高生)がワクワクする居場所のある街づくり
→都会で生活している中でふと帰りたい！自分らしくいられた思い出をつくる ⇒出会

い 自分を表現 人に認めてもらう

- ・街の賑わいを取り戻すのではなく温かさのある街
→同じ趣味等で繋がることのできる街 ⇒ダンス パフォーマンス E-sports

(参加者 B)

- ・地域との交流を深めていただき信頼関係を深めて「地域のキーパーソン」になってほしい
- ・キーパーソンの発掘
- ・中心市街地への飲食店等のアシスト
- ・中心市街地の空き店舗流動化（活性化）を図りたい
- ・空き家対策、空き地空き家利活用を通じて地域の活性化を図りたい

(参加者 C)

- ・第1回議事録を見て同じ気持ちというか同じ境遇の人がいた
- ・子どもだけでなくお年寄りも出歩ける街 お年寄りもファンにできれば
- ・子ども（未来の大人たち）が商店街で何かをして思い出ができることで未来に繋がると思う。商店街がただの通り道ではなく居場所になれば
- ・正直諦めていました。でも昔の賑わいが100点としても、今は今で違う100点を目指していい街住人が愛着のある街になればいいな

(参加者 D)

- ・今現在の大門地区の状況を知りたいと思った
- ・企業人として地域にどんな貢献ができるか考えてみたい
- ・「郵便局」という基盤を大いに利用してほしい
- ・昔のような賑やかな商店街を取り戻したい

(まとめ)

- ・あの頃の賑わいをもう一度！⇔事業所、住民
→今の子どもに（地域への愛情、Coreもよい、もう1アクション）駄菓子屋 たこ焼き屋残念
→いや、ムリだろ！ →商店街と住人がHAPPY おためし住宅、えんぱーく、k i c h i
→高層マンション誘致 人口増

■会議議事録

(参加者 C)

- ・ホームページに公表された第1回共創会議の議事録を見て、子どものころ、40年前の大

門の記憶がよみがえってきた。きゅんとした。駄菓子屋でピンボールゲームをした時のこととか。議事録をみて、こんなに大門以外の市民の方、移住者の方とかが一生懸命に活動してくれ、このような会に参加して、大門町を盛り上げようとがんばっているのに、大門町民が他人ごとではいけないと思い、急遽参加した。

(参加者 D)

・郵便局という基盤を、地域の人たちに大いに活用してほしいという思いで参加。また企業人として地域にどのような貢献ができるか考えてみたいと思った。

(参加者 C、参加者 D)

・生まれも育ちも大門で、現在のえんぱーくがある所で、幼少期を仲間たちと遊んだ記憶。おやつをたべたり、遊んだり。かつての大門への想いがよみがえった。
⇒自分が町の再生に関わり、なんとかしたい。他人ごとではいけない。

(参加者 C)

・大門商店街の活性化は正直諦めていたが、昔の賑わいを 100%取り戻さないまでも、今までと違う、住人が愛着のある街にしていけばよい。昔の自分たちがワクワクする商店街を取り戻したい。

(参加者 A)

・人口減少は日本全体の現象でもあり、致し方ない面もあるが、コンパクトな街づくり、コンパクトシティなどを実現することが必要。箱モノだけでなく、コミュニティをつくる
⇒人・仲間が集まるコミュニティを目指す

(参加者 B)

・人口を増やすためには、高層マンションの誘致が必要。空き家対策等を通じて地域の活性化を図りたい
⇒期間限定のお店、チャレンジショップ、お試し住宅など、ロマンのある企画を。例えばえんぱーく前に小さなショップを作るなど。コミュニティの創成をしたい。

(参加者 A)

・高校生が集まる場所を作る。市内高校全部で 14 クラス分の生徒がいる。約 400 人もの高校生を活用しない手はない

(参加者 B)

・ぜひ地区役員を経験してほしい。大変だけど、愛着が湧いてくる

(参加者 E)

・塩尻市にお店を出店したいと思う仲間に、ぜひ出店したらと言えない。集客・人の移動・平日の稼働など問題課題が多い
⇒みんなが HAPPY になるような街づくり

(参加者 B)

- ・みんなが街づくりのキーパーソンになろう。私がなんとかしよう、俺がなんとかしようというまちづくりに関わる意識を持ってほしい。
- ・最近民生委員の候補者がいない。民生委員の仕事は大変

(参加者 C、参加者 A)

- ・子供の居場所づくり。子供たちの居住区域をつくってあげると、子供が成長して街に戻ってくる。

(参加者 C、参加者 B)

- ・地区の役員、組長などから見て、何が不足して、何を求めているかを把握すべき。
- ・ボランティアを担う地域交流
- ・新しく箱ものをつくる必要はない、既存の建物の有効活用

(参加者 C、参加者 A)

- ・既存の建物にガラスを貼る
- ⇒人の集まる場所の提供

(ファシリテーター)

- ・えんパークでビアガーデンを OPEN しよう

(参加者 B、参加者 E、参加者 C)

- ・ひとが還流する街づくり

(参加者 C)

- ・core 塩尻はよい。駄菓子屋の取り組みもよい。たこ焼き屋がなくなっていたのは悲しい。いいものはあるからもうワンクッションが必要。
 - ・何もしないで衰退していく街をみていくのは、つらい
- ⇒コンパクトなまちづくり、箱モノに頼らない街づくり
心が満たされる、地域の住民が幸せになれる街づくり

(参加者 B、参加者 E)

- ・住民が街づくりに興味のある人と全くない人とに二極化している。街づくりに参画したい市民は潜在的にたくさんいるかもしれない。

(参加者 C、参加者 E)

- ・まちづくりや集客、街の再生活動に関わる
- ⇒空間の提供（えんぱーく）

(参加者 C、参加者 D)

- ・手作りのマップの活用、面白い店、飲み屋、食べ物屋

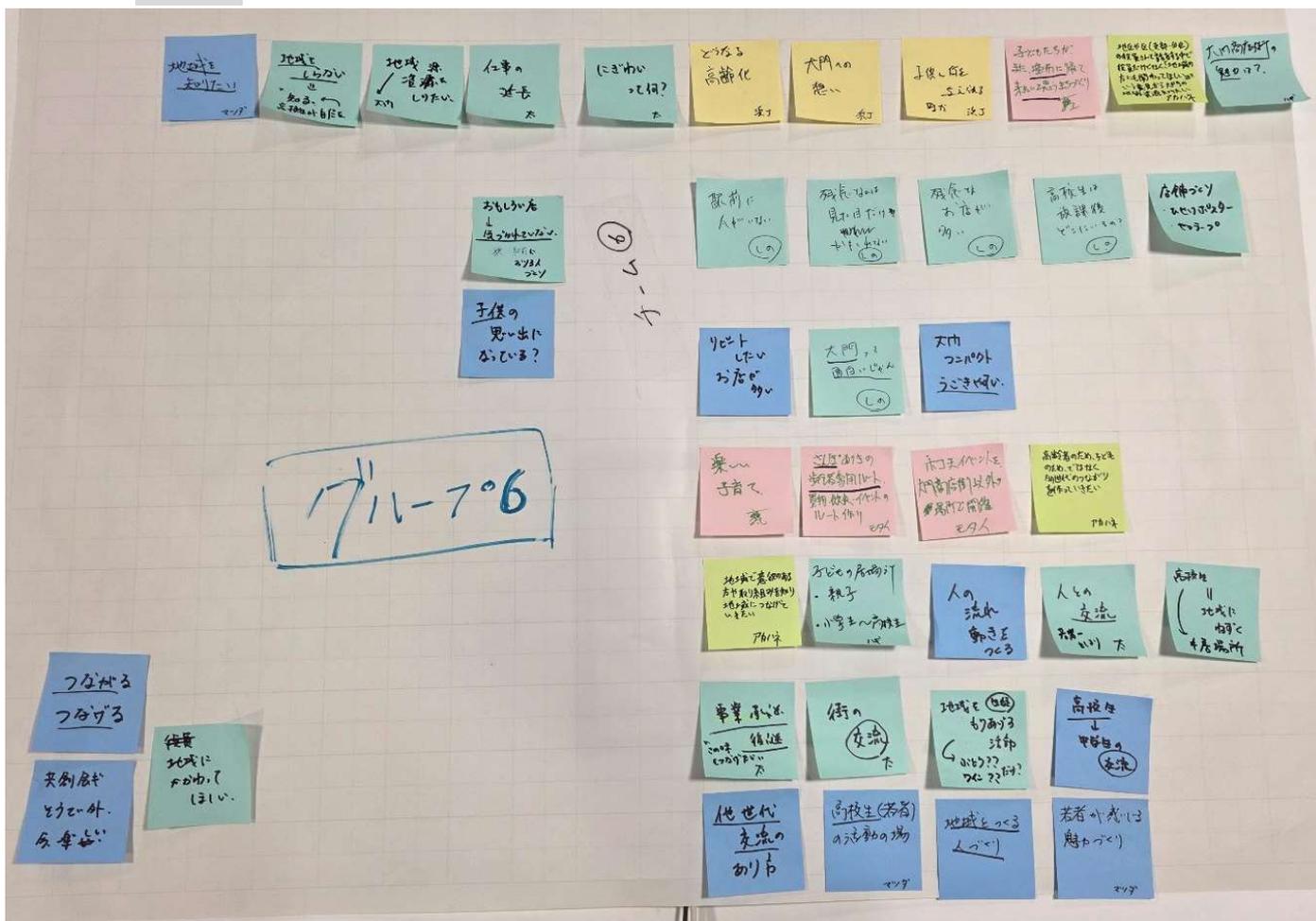
(参加者 E)

- ・とにかく人が集まらないといけない。集客、集客というのも大変かも

6班議事録

ファシリテーター：商工会議所職員

■ 模造紙



■ 付箋内容

(参加者 A)

- ・ 地域を知りたい
- ・ 高校生（若者）の活動の場
- ・ 若者が感じる魅力づくり

(ファシリテーター)

- ・ 仕事の延長
- ・ 賑わいって何？
- ・ 人との交流（若者一年寄）
- ・ 事業承継、後継（この味を繋げたい）

- ・街の交流

(参加者 B)

- ・どうなる高齢化
- ・大門への思い
- ・子どもに何を与えられる

(参加者 C)

- ・地区や区（支部・分会）の役員さんと話をする中で、役員だけでなく「地域の方にも関わってほしい」という意見から大門の地域資源を知りたい
- ・高齢者のため、子どものためではなく多世代の繋がりをつくっていききたい
- ・地域で意欲のある方や取組みを知り地域に繋げていきたい

(参加者 D)

- ・子どもたちがまた塩尻に帰って来たいと思う街づくり
- ・楽しい子育て
- ・さんぽありきの歩行者専用ルート 買い物、飲食、イベントのルートづくり
- ・ホコ天イベントを大門商店街以外の場所で開催

(事務局)

- ・大門商店街の魅力は？
- ・子どもの居場所（親子、小学生～高校生）

(参加者 E)

- ・残念なのは見た目だけかもしれない
- ・残念なお店が多い
- ・高校生は放課後どこにいるの？
- ・大門で面白いじゃん

(まとめ)

- ・地域に関わってほしい
- ・高校生 地域に根付く居場所
- ・地域を知らない→高校生が自身を知る
- ・地域資源を知りたい
- ・おもしろい店気づかれていない→駅前に降りる人づくり
- ・(生徒) 地域を盛り上げる活動 ぶどう、ワインだけ？

- ・店舗づくり（ひやけポスター、セロテープ）
- ・子どもの思い出になっている？
- ・リピートしたいお店が多い
- ・大門コンパクト 動きやすい
- ・人の流れ、動き」をつくる
- ・つながる つなげる
- ・共創会議 想定外 今楽しい
- ・高校生、中学生の交流
- ・他世代交流のあり方
- ・地域をつくる人づくり

■会議議事録

(参加者 A)

- ・子ども達（生徒）が地域を知らなすぎる→地域を知る機会が必要
- ・塩尻に何があるのか？ぶどう？ワイン？自信を持ってコレというものがない
- ・若者（高校生）が地域を盛り上げ仕組みづくり→活動の場
- ・若者が感じる魅力づくりがしたい
- ・中学生と高校生の交流ができないか

(参加者 E)

- ・面白い店やリピートしたい店がある一方で見た目が残念な店もある（色あせたポスター・セロテープ）、もしかしたら見た目だけが残念な店かもしれない、気づかれていないだけかも→何とかしたい
- ・駅前に人がいない、塩尻駅で降りようとしないう→駅前を何とかしたい
- ・高校生は放課後どこに行くのか？→松本かな

(参加者 C)

- ・仕事上、区の役員とかかわる機会が多いが、区の役員は、地域住民にも地域づくりに関わってほしいと思っている→自らも地域づくりに参加したい、地域資源を知りたい
- ・地域で意欲のある人や取組を知って、地域に広げていきたい
- ・高齢者や子どものためだけでなく、同世代のつながりをつくっていききたい

(参加者 B)

- ・まちづくりに関心がある人がこんなにいるとは思わなかった→昔より今のほうがよいのでは？
- ・お店も高齢化が進んでいる→店主は自分の代で閉めようと考えている→今ある店を残し

ていく取り組みが必要（次につなげていきたい）

- ・子ども達に「塩尻の思い出は？」と聞いても「何もない」と言われそうな気がする
- ・まちが子ども達に何を与えられるか

（参加者 D）

- ・子ども達がまた塩尻に帰ってきたいと思うまちづくりをしたい→地域で子どもを育てる
- ・散歩ありきの歩行者専用ルートづくり
- ・買い物、飲食、イベントのルートづくり
- ・歩行者天国を大門商店街以外の場所で開催
- ・駅下の地下通路を活用したイベント開催

（ファシリテーター）

- ・にぎわいって何？
- ・市内に中でも大門には人が居ると感じている
- ・若者からお年寄りまでの交流
- ・大門商店街はコンパクトで動きやすい
- ・お金をかけない取組み
- ・子どもと高齢者をつながりの場

（事務局）

- ・大門商店街の魅力をどのように発信するか
- ・子どもの居場所になってほしい（親子、小学生から高校生まで）